

平成29年11月定例教育委員会議事録

(白石町教育委員会会議規則第16条及び第17条の規定により作成)

- 1 日 時 平成29年11月20日(月) 午前10時 役場3階 会議室5
- 2 出席委員 北村教育長 稲佐委員 大串委員 下田委員 松尾委員
- 3 事務局職員 吉岡学校教育課長 千布生涯学習課長
石橋主任指導主事 中村指導主事 川畑庶務係長
- 4 前回議事録の承認
10月定例教育委員会の会議録 【原案どおり承認】
- 5 教育長の報告 別紙資料のとおり
- 6 会議に付した議案
付議第24号 平成29年度卒業式の期日について
付議第25号 平成30年度入学式の期日について
付議第26号 12月補正予算について
付議第27号 平成29年度立志式について
付議第28号 準要保護の認定について
- 7 動議の提出者 なし
- 8 議事の概要 別紙資料のとおり
- 9 議決事項 付議第24号から付議第28号すべて議決
- 10 その他
 - ・事務局からの報告
 - ・傍聴者 無し

1 開 会 9:57

吉岡学校教育課長

2 前回議事録の承認 9:57

10月定例教育委員会の会議録を資料により説明

委員全員承認

3 教育長報告 9:58

(前回以降の主な動向)

ちょうど秋で学校は、色々な学習のまとめで発表会、収穫祭、文化発表会など開催をされております。

・10/27 北明小学校英語専科公開授業研究会

町内では、北明小学校に英語専科で教諭が入っていただいています。この方が小学校の英語指導という事で公開授業をしていただきました。

・10/28 福富中・有明中

・10/28 白石中文化発表会

中学校の文化発表会があり、どの中学校も素晴らしい発表内容で、3年生の劇は、セリフの棒読みではなく、本当に役になりきって、保護者の方からも文化発表会だけの発表ではもったいないという声もたくさん聞かれたところです。合唱の方も常々歌声は学校運営のバロメーターと思ってきたし、外へも発信しておりますけど、本当に声量はもちろんですけどハーモニー美しさ、自分だけではなく周りに合わせるという事、こういうのは、体育大会の大きな声は、ある程度強制力で出せますけど、この歌声のハーモニーというのは強制力では出せませんので、本当に日ごろの教育の成果だと感じたところです。

・11/4 中学生による器楽演奏鑑賞会（町老人クラブ主催）

昨年度からスタートし、今年度2回目ですけど、今回、有明中、白石中、昨年度参加しました福富中は、ブラスバンド部もありませんので今回出ていただけませんでした。非常に老人クラブの皆さんからも好評を得ました。しかも、ただの演奏ではなく、一緒に楽しむ、例えば早口言葉を演奏しながら客席を回っておじいさん、おばあさんに早口言葉を言っていただくなどのエンターテナー的な工夫もされていました。

・11/10 県中学校総合体育大会駅伝大会、町教育支援委員会

県の駅伝大会があり、代表で出ました男子の白石中学校が4位、女子の有明中学校が3位と健闘していただきました。それから、この日は9時半からスタートし、終了が18時半までかかりましたが、町の教育支援委員会を開催しました。特別支援教育の対象の子ども達のより適正な就

学の在り方について、専門家の意見を聞きながら正味8時間くらいかかりましたが終了しました。

- ・11/12 白石地域文化祭開会行事、にしきえ祭（有西小）、須古まつり（須古小）、南小まつり（有南小）、学習発表会（白石小）、コミュニティデー（六角小）、伊万里市学力向上フォーラム

それぞれの小学校の学習発表会、祭が開催されました。やはり、人前でペーパーを見ず、大きな声で発表をするというのは大したものです。なかなか、十分な準備もできない中で、本当に臆せず堂々と意見発表をする、役をこなすというのは、大したものだと感じたところです。それからこの日、新しい試みで伊万里市の方で、県の学力向上フォーラムが開催されました。講師が元福井県の中学校の校長で、牧野先生です。この方は、現在、退職されて和歌山県の教育企画官で、和歌山県知事からお願いされて務められています。この方の講演でしたが、もっと先生方にプロ意識をとという事で刺激を受けました。全国学力学習状況調査等で、常に福井県は上位で、今回も小学校ではトップでしたが、順番、点数、数字には、それほど目くじら立てる必要はありませんが、それより、同じ問題で、本町と上位のところで10ポイント、20ポイントとなぜ差があるのか、そこを本当にしっかり分析して、同じ問題をどうして解けたり、解けなかったり、そこをきちっと行うのがプロであるという話がありました。まさにそうだなあという事で、特に白石町も全体的には良かったが、国語のBあたりは、私も戻って改めて結果を見ましたが、やはりわずか数問ですけど、その中には福井県と10ポイント以上離れているのが2問くらいあります。その中身で、子どもたちがどういうところで苦戦をしているのかというところを少し細かく、教育委員会としてもその辺りの支援を出来たらと思ったところです。

- ・11/14 教育委員会佐賀県連絡協議会
本年度末の人事異動の方針、実施要領が承認されました。いよいよ人事が動き出します。
- ・11/15 校長会、第1回健康パークゴルフ選手権大会
パークゴルフ場が昨年9月に開始され1年ちょっと過ぎましたが、それにちなんでという事もありますが、老人会とタイアップして第1回のパークゴルフ選手権という事で集まって頑張ってくださいました。
- ・11/16 臨時議会、第2ブロック市町村教育委員会研究協議会（～17日）
- ・11/17 福富小中一貫教育研究発表会
福富小学校が昨年度から2年間、町の研究指定で頑張っておられた、小中一貫教育の研究発表会を見事にさせていただきました。これを踏まえて来年度から正式にスタートという事で、今後、説明会とか広報とかに努

めることとなります。

・ 11/19 ペったんこ祭

非常に寒かったが、主催者発表で1万5千人という事でした。1万5千というのは、今まででは、1番ではないかと思えます。

(問題行動等報告)

(1) 問題行動

おかげさまで10月も報告を受けておりません。本当にありがたいところです。問題行動については、低年齢化が進んでおり小学校の暴力行為というのが全国的には激増しております。友達、教師への暴力、器物破損など。そういった中で本町は報告を受けておりません。順風満帆ではないと思えますが、早い時期に相談的な関りをしていただいているところが、背景にあると思っております。

(2) いじめ問題

小学校 覚知、認知と2件の報告がありました。

どちらも6年生の男子で、ぶつかられたり、叩かれたり、けられたりという事です。このことで、学校を休んだりという事は発生しておりません。それから、小学校で1件解消しております。

中学校 報告はありません。

1つのケースが解消しております。

これも、喧嘩ではないかと思分けが難しいのですが、いずれにしてもよくない関係、トラブルについては、早めに関わっていただいているものと思っております。

(3) 不登校

小学校 4人

中学校 21人

小学校の6年生男子が新しく報告があつてます。昨年全く休みがなかったが、この月丸々休みです。それと、中学校では2年生の男子が新規です。それからもう一人2年生男子です。家庭的にも色々あるようで、お父さん、お母さんの関係とか、お父さんとお母さんの間を行ったり来たりとかそういう事があつて、福祉からの支援が必要なケースのようですが、やはり粘り強く励まし、勇気づけというのをしっかりしていただいで、できれば復帰していただきたいが、例え中学校の期間復帰できなくとも、その後の自立を願いたい。家庭との連携もしっかりしていきたいと思えます。学校段階では関わっていただいでおりますが、白石町としては、ちょっと数が多いし、発生率も全県よりも高い数値が出ておりますので、対処療法的なことばかりやっておりますけど、もっと根本的な小さい頃からの自信、勇気づけというようなことを考えないといけないと思っております。そういう事で、幼保小の幼稚園、保育所、小学校との連携、

保護者を含めた連携というのが、少し気になるかなあという事で、今後やはり施策の中で考えていかないといけないという思いはあります。

(教育委員会佐賀県連絡協議会)

(1) 平成30年度市町立小・中・義務教育学校教職員人事異動方針

現在、嬉野市だけが旧制度で教育委員長さんがいらっしゃいますので、以前は教育委員長さんも参加されていましたが、本町は、私だけの参加という事です。人事異動方針ですが、ほとんど変わっていませんが、義務教育学校が増えております。

(2) 平成30年度実施要領

(3) 平成30年度新旧対照表

新採教諭等は、原則として、1学年に複数の学級を持つ規模の学校に配置する。複数ですから、白石町で言えば福富小しかありません。ですから、新採が来る場合は、福富小しかないという現状がこれまでありましたが、それでは、固定化してしまうので、そうではなくて、小規模でも受け入れの条件が整っていれば、小さい学校でも新採を入れますという事になりました。それから、再任用の件が新しく起こされております。

(4) 平成30年度人事異動についての事前指導

このことで、校長会が11月28日にあります。そこで、詳細は校長先生に伝わり全職員に伝わりますが、11月29日に異動希望調査書が配布されます。提出が12月6日までという事で、かなり早くなっています。以前は、正月明けてからこういうのが動いてました。出来るだけこういう異動の事務を早く進めて、30年度は無理かもしれませんが、新しい年度の始業式の時に全職員が確実にそろそろような形で出来ないかということです。今は、始業式の日担任発表という事で、校長先生が名前だけ呼ばれて、そこにいらっしゃらない。ですから子どもたちが家に帰って、名前だけ聞いて会えなかったと言う事が続いています。そういう事が無いように、早めに異動事務を済ませようという方向で動いています。

(その他)

(1) H29全国児童生徒アンケート(抜粋)より

参考までに全国と白石町と福井県の学習状況調査のアンケートの部分の部分を拾い上げてみました。資料の網掛けの部分は良くも悪しくも全国より高い分になります。結構白石町も網掛けたくさんありますが、この中で極端にというのが、13「家で学校の授業の予習をしていますか」中学校で4.5ポイントですので、福井県は21.3ポイントあります。小学校も12.6と福井の半分以下です。宿題等も課題等出していただいておりますが、量よりもどうの何をどうの形で出すという質、その辺りを工夫してやらないと厳しいのではと思います。9「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めてます

か」中学校13.5、この辺りも厳しい数字です。今後も子どもたちの様子が見える形でグラフとか数字で示していければと思うところです。

(2) 2016年度問題行動調査より

15年度より43.8%の増と書いてありますが、いじめです。43.8%増えているという、もちろん調査が非常に細かくなっておりますので、色々な部分を拾い上げている分もありますが、こういう状況です。それから、小学校の暴力行為が2万3千件という状況で、「小学生による暴力行為はの件数は、2年連続で急増している。」、「このうち小学校は、前年度比33.8%の増」中学校は8.8%の減、高校も2.9%の減であります。小学生だけ33.8%の増で生徒間暴力が前年度比39.3%の増、対教師暴力が23.4%の増、器物破損が24.6%の増とこういう状況です。「増加率は低学年ほど大きく、例えば1年生は58.5%増、2年生は43.6%増」という事で小学生の低学年で増えているという全国的な状況です。

(3) 基礎的読解力について

新聞記事についてですが、これを見ると読解力は大丈夫だろうかと思うところです。新聞記事にある例題でそんなに難しくはありませんが、正解率が中学生で12%、高校生で28%です。これは、国立情報研究所の新井先生という女性の先生ですが、ずーっと似たような提言をされております。色々難しいことを言っているが、本当に教科書が読めているのかという事です。文字は追っていても教科書が読めているのかという事です。こういうことをやっていたら、AIとか言っているが、運転免許をとれないとか職に就けないとかいう事で、そういう事態が発生してきますよというような提言がなされています。プログラミングとか英語教育と読解のどっちが優先ですかという事で、今文科省にうったえられています。もう一つも文をちゃんと読んでいればわかりますが、これが、中学校で53%しか出来ていない。こういうのが、研究として出されていますので、やはり学習の基礎が読み書きと言いますけど、読むことあるいは、文書の中身を理解する読解力というのは全ての学びの基本ですので、こういう事を欠かしてはならない。ですから、文読、速読、素読、こういった読み、読み聞かせ等頑張ってくださいますが、本当に地道に基本的なことをやらないと、目先の今日的な指導で足をすくわれないようにしないといけないという事です。こういう事で思いを強くしたところです。新教育課程は、ナショナルスタンダードであります。それを進めるうえでもこういった本当に根っ子の部分、基礎的な部分をないがしろにして肝心の力が全然ついてない、というようなことにならないようにと思ったところです。

(4) 携帯不要の家庭づくり宣言

六角小学校PTA携帯不要の家庭づくり宣言という資料を付けておりますが、

これは、六角小学校でこういった取り組みをスタートされました。今、同じようなことが、郡のPTA連合会でも動かれていますけど、なかなかPTAでも色々な意見があつてまとまらずに、大きな動きとはなっていませんが、方向性としては、こういったことでやろうかというようなことをされております。教育委員会としては、スマホ、SNSの問題については、何か関りをしないといけないが、どうしても行政がいきなりこういう風にしましょうと言つても根付きませぬので、こういう実践を踏まえながら、足並みをそろえてとか連携、共同してというのが一番いいのかなあと考えていますが、スタートしていただいてありがたいなあと考えています。私も「携帯が子どもをダメにする」という本を読みましたが、携帯を触れば触るほど、記憶力なんかが一気に落ちるそうです。頭がいいとか悪いとか関係ないと、そのメカニズムが今一つですが統計で表れています。

4 付議事項の協議 10:35～

付議第24号

平成29年度卒業式の期日について

付議第25号

平成30年度入学式の期日について

川畑係長：資料に沿って説明。

委員全員承認（付議第24号）

委員全員承認（付議第25号）

付議第26号

1 2月補正予算について

川畑係長：資料に沿って説明。

稲佐委員：学校訪問等をさせていただいて、スクールアシスタントの方々のそれぞれの働き、あるいは、校長の説明等でわかっているわけですが、連絡調整等々しなければいけないものもあると思います。例えば、小学校のスクールアシスタント、中学校のアシスタントあたりで予算の付け具合は均衡ではないわけですね。

川畑係長：時間の配分につきましては、児童生徒数で変わってきますので、予算上で、時間で申しますと単純に小学校が多くなっています。基本が、小学校が3,900時間というのが基本であつて、それに対して福富小学校であつたり白石小学校であつたりと児童数が多いところは上乘せという形で、中学校につきましては、3,300時間としておりますが、白石中学校は特別な事情があつたの

で、そのあたりの調整は、ここ数年はされているところです。

稲佐委員：例えば調整する際にAというスクールアシスタントもいらっしやれば、その人が関わった時間帯というのは、逐一チェックされているのですか。

川畑係長：はい、そうです。

稲佐委員：そうしないときちんと出ないですからね。はい、わかりました。

下田委員：今回のこの補正についてはありませんが、学校訪問させていただいて、スクールアシスタントの先生方に研修が必要かなあと思うような部分が見られます。これは、この配置事業の中にそういった研修を盛り込むようなこともできるんですか。来年度になると思いますが、来年度、この事業の内容に盛り込んで予算を申請していただくという事も出来ますか。

川畑係長：研修の話ですが、予算的などこをいくとどうしても財政的に厳しいので、その研修のための時間というのは、おそらく取れないと思います。ですので、この今持っている予算の中からその研修の時間、この方たちは、時間給でやられておりますので、研修をするのであれば、その時間給を払って研修をするという形になるかと思えますけど、ただ学校の運営の中に入っていらっしゃいますので、支援員さんが1日そこにいらっしゃるわけではなくて、シフトのところも学校によって違いますので、一堂に会しての研修というのは、なかなか、難しい部分があります。以前も話をされたかと思いますが、ここ1、2年は、こういった研修をしてくださいという事で学校の方をお願いして、うちの方からペーパーを出して研修をしてもらっているところです。

稲佐委員：これだけの予算かけてますから、それだけの効果をあげてもらっていただきたい。

委員全員承認（付議第26号）

付議第27号

平成29年度立志式について

吉岡課長：資料により説明。

委員全員承認（付議第27号）

付議第28号

準用保護の認定について

大川内主任：資料に沿って詳細説明。（1件）

厳正なる審査の結果認定。

委員全員承認（付議第28号）

5 その他 10:57～

（1）第2回教育支援委員会の経過について

中村指導主事：資料に沿って説明。

（2）成人式について

千布課長：資料に沿って説明。

（3）人権フェスティバルについて

千布課長：資料に沿って説明。

稲佐委員：人権フェスティバル、それなりにパネル発表、講演会等々良くされているなと思います。私も過去9年間、本山の人権擁護員をしていましたが、向こうは山科区がありますので、いわゆる同和地区を対象とした発表が多いわけです。こちらの方は、どちらかというところこの標語に挙げていただいているように、いじめであるとか障がいのある人への差別とかあるわけですけど、実際は、部落解放あたりは、実際に同和教育というような立場で、部落差別をなくすというのが国民的課題だと言われておりますけど、意外と最近はそのちに触れないで、障がい者だとか身近な差別の方に傾斜していっているような感じがします。それで私たちお坊さんの仲間でも来年の4月に人権のことをしますが、その前の時には、龍谷大学の太田先生を呼んで、そのものずばりのところを講演していただきました。意外とそういったところで皆さん避けて通られるのか分かりませんが、例えば賤称語とかを使ったとか、この間大分で村八分的なことがあったとか新聞に載ってはおりますが、同和教育そのものについての歴史とかそういったのは、以前、随時発掘してどんどん、どんどん周知徹底するように、そういう内容のものが講演会など多かったです。最近あまりそういったことはなくなってきたのでしょうか。昔はそんなことを言ったら糾弾されるという事で、恐れてしてなかったのですが、最近では糾弾会とは言わず学習会といいます。京都の山科区あたりは、もろにそういう話です。

千布課長：私たち研修会に結構行きますが、実際そういった内容でも結構さ

れています。

稲佐委員：結婚差別とか、そういった内容の。

千布課長：結婚差別とか、同和問題に関しても当然ありますし、そこであえて避けるという感じではありません。一番身近な人権という事でされてます。

稲佐委員：今はそういう風になってます。全国津々浦々、人権養護員が配置されてから以来、同対法から地域改善対策特別措置法になってから身近な差別へとなくなっていきました。ですから、そういう風になりつつあるとはわかりますが。本当の根本は、部落差別ですよ。

千布課長：はい。

下田委員：人権とは、そもそも何というところですけど、人権を「こういう事ですよ。」と答えられる人は、あまりいないのではないかな。ここをみんなで考える機会になってもいいのではないかな、人権て人として生まれた人と全部が持っている権利、法律で定められている権利というのがキチッと規定されているので、そこら辺も含めて、今、稲佐先生が言われたように「いじめ」とか「差別」とかだけではなくて、「権利」人権を考える機会、そういうのも1日の中に半日の中にキチッと皆の目に触れられるような部分があったらいいかなあと思っています。

北村教育長：お二人おっしゃられたように同和対策基本法の中身が変わりまして、部落問題というよりも一般法になりましたので、今下田委員さんがおっしゃったように、やっぱり人権の在り方というのは部落差別も含めて、その中の一つとして広く考えようというようになってますので、行政もそういう方向に動いているのではないかなあと思っています。併せて今回、高校生を講師に呼んでますので、このことの説明ですけど嬉野高校の社会福祉系列、ここは、総合学科で社会福祉系列の子どもたちは、入学の時から介護福祉士の国家試験の免許を取るというのが大きな目標です。十数名から二十数名、三十名になることはありませんが、全員とにかく国家試験に挑戦する。これは、一般でも通過率50%を切るような状況ですので、非常に難しいのですが、これを21年から7年連続全員合格してきています。そういった学習の中で、差別解消法とかあるいはユニバーサルデザインとか、そういうものを広く地域に広めるという事で幼稚園に出向いたり、小中学校に出向いたり、あるいは、老人会に出向いたり佐賀にわかを使ったりとか紙芝居を使ったりとか、あるいは、プレゼンをしたりとか出前事業をやってくれています。今年度

も有明中学校とかはユニバーサルデザインで来て来てくれています。そういった活動をとという事で、中身はどういう内容になるかはまだ分かっていませんが、いわゆる介護福祉士を学ぶ過程でのことを広く皆さん方に広めるというような活動をしてくれると思っていますとこです。

(4) 12月行事予定表

川畑係長：行事予定資料に沿って説明。

(5) 箱根町学校統合視察の報告

吉岡課長：11月6日に議会の文教厚生委員会の視察に同行した際の報告。

資料により町の概要、学校の規模、市町村合併、学校統合の経緯、統合に至るまでの問題、課題、文部科学省からの意見等説明。

北村教育長：教育委員会では白石町も統合に向けて進むという事で意見をいただいて、問題はその後どう進めるかという事ですけど、資料にも出てますけど、学校云々というのは町づくりの一環ですので、教育委員会単独での云々ではないわけです。ですから、企画あたりが中心になって、統合検討委員会という事でなされるのであらうと思えますけど、ただ教育委員会としては、基本構想というのを例えそういう風にならなくても諸条件を考えて基本構想を持っておく必要があるだろうと思っています。今それを少しずつ作り上げているところです。これまで、課長から色々な資料が配られていますけど、あと10年後は一気に老朽化の波が来ますので、それを乗り切れるのか、財政的にもそこら辺りもありますので、とにかく10年スパンくらいで何とかしないといけないという状況であるのは間違いないという事です。また、できるだけ本年度中に基本構想について、1回ではだめだと思えますので、素案を基にご意見をいただく機会を設けたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

稲佐委員：私も教育長さんおっしゃいましたように2030年に本町の人口のグラフを見ますと、やはり現在より7、8千人減るような、少子化を止めることは、なかなか出来ないものですから、やはりその間にある程度地固めをしていないと、その時なってからというところと恐らく地方交付税もそう貰えないだろうし、今のうちからその間にある程度基礎のところ、基本のところをしておかないとだめだろうと思えます。最終的に決定するのは、ここにもトップダウンと書いてありましたが、誰かがするぞとなってドンと進むかもしれませんし、その辺りを“うじうじ”していてもなかなか出来ない。誰かが「するぞー」と言ってドンと出来るかもしれません

し、やはりその辺りの地固めしておかないと書けないだろうと思います。

松尾委員：急にドンとなったとしても、町民の皆さんの感情的には感情的に難しいと思うので、例えば少しずつ出していくという。町の情勢はこういう事だから統合もあり得るかもという下話が少しずつでも出ていけば、町民の皆さんも「ああ、そうか」と考える機会ができるじゃないですか、そういうのをそろそろ出していかないと議会がなり教育委員会が言ったからドンと行ったら逆に混乱するのではと思うのですがいかがでしょうか。

北村教育長：その手立てというのが、その辺がおそらく今の町の施策のプランを作られる時も統合についてのアンケートも取られています。ずいぶん前ですが、多分今回も出されるかと、それから色々な地区からの意見を求めたり、それから色々な地区の代表の方が集まっていたいて検討委員会、多分そういう風に動くのではと思いますが、ただ、色々な意見が出ても最終的にどうするかというのは、やはり首長が決めないと決まらないところではないか。そこだと思います。ですから、独断ではなくて広く町づくりの一環として町民の方から色々な意見を拾うという事はしていただこうと思っはいますが。

下田委員：事業計画を立てる時には、いつ、何をどうするという何年先までの目標を立てて、この場合は、いつ統合しますよという、私たちはいつこの事業を開始しますよという計画を立てて、ずっと準備を進めてきますが、今、今後こうせざるを得ないねという話で、ではいつまでにとという事が具体的に何も見えてなくて、その辺りをその事業計画を知りたいなと思います。

北村教育長：それが基本構想です。そこが、何年にどういう風に持っていく、そのためには、事前準備はどうするかとかです。

松尾委員：その辺りは、以前話した須古小学校の体育館が一番古いですよ、そこが、リミットがいつなのかということもあると思います。

吉岡課長：須古小学校の場合は、対応年数を過ぎていたものを補修をしながら使っている状態ですが、ただ、今全体の11校の前回資料出しましたが、だいたい10年後くらいに対応年数の切れが来るとそこが1つです。

松尾委員：10年後には必ず何らかの方策を取っておかないといけないという事ですよ。

北村教育長：はい。その辺りが基本構想です。ただ、教育委員会がした通りにはならないかもしれませんが、いずれにしても一番ネックは、

財政が厳しいです。もう2万人を町の人口も切ろうとしていますし、交付税についても、合併特例債もなくなりますし、過疎債も間もなく切れますし、今後またそういうものが新たに立ち上がれば別問題ですけど。

吉岡課長：資料にはございませんが、私の方から2点追加で報告させていただきたいが、一つは福富中学校の来年度以降の給食調理の件でございます。今年度の白石町の学校給食は、給食調理員が大変年度当初不足いたしまして、緊急的な処置として福富中学校の給食のご飯は全校給食センターで作っていますが、おかずの部分です。給食センターで、中学校の分は提供に変更しております。しかし、その後、今年度においても依然として調理員の人数が深刻な状況でして、今日現在も年度当初より更に2人減っている状態でございます。途中3人まで減って、2人雇用でよかったと思ったらまた退職という形で現在2人不足しております、その調理員の人数確保につきまして、待遇改善等色々考えておりますし、それから募集も回覧板をして、それから納入組合にもご協力をいただいて、人材を当たりましたが、中々うまくいっておりません。現在の社会全体の人手不足、特にその中で調理員、介護職、清掃、この3つは特に人が集まらないという事で、その辺の状況を考えますと来年度福富中学校の給食の再開を出来るような雇用は無理であろうと現時点で、今年の明日からでもどうするかという状態ですから、来年度の福富中学校の調理の再開は無理という判断を現在いたしました。ただ、それ以降の話ですけど、現在福富中学校の調理室は、再開ができるようにという事でもちろん維持もしていますし、例えばどういう事をしているかという冷蔵庫については、電源も入れてずっと置いております。カビ等が生えないように冷やした状態です。ですが、それもいつまでもできる状態ではないし、部屋自体も使用していないときの埃がだんだんたまっていくという事で、衛生管理上再開が困難になっているという事と人員の確保がここ数年ですぐ回復する状況ではないという事で、来年は閉鎖を決めましたけれども再来年以降も再開を断念しようと、ただいま、ほぼそちらの方向で動いております。現在その旨を学校長に相談をいたしまして、そのあと学校長さん等入れてPTAの会長さん、それからPTAの役員会の方にも打診をいたしました。それについては、今のところご意見いただいているのは、今の給食センターのものを食べていて、おいしくないとかもちろんないわけですし、満足していて問題はありませぬという

話をいただいております。ご了解を得ておりますので最終的には、先ほど日程にもありましたけれども12月3日の教育の日が午前中フリー参観で福富中学校の場合は、保護者が集まってこられます。その後学年保護者会がありますので、その場でご説明をさせていただいて、ご理解をいただければ最終決定をして、今後は、福富中学校の給食は白石町の給食センターの方で調理をさせていただくと方針とさせていただきたいと思っております。

二つ目が、同じような話ですが、プールの話ですが、現在町内3つの中学校につきましても、有明中学校が爽明館の方でプールがありますので、そちらの方へ生徒が行って水泳をしております。ただ、白石と福富中学校につきましても、それぞれの学校のプールで授業をしているのですが、傍から見れば使っているのかというくらい傷んでいまして、白石中学校は、立ち入り禁止区域があるプールです。福富中学校は、砂が出てきている状態でありザラザラで今度は、水が完全に抜けきれないのでホースを入れて水を抜くというような状態になっています。大体、建築から白石中学校の方が30年程度、福富中学校は49年が経過しております、それで今後維持するのが、水道代は数万円の話ですが、ポンプとか浄化槽がやられますと何百万とかかりまして、福富の方も応急処置で動かしている状態でございます。それから、使用頻度を見ましても、小学校は夏休み一般開放がありますが、中学校はない、それから中学校のプール指導が必ずしも必須ではなくて、例えば溺れないような訓練はしなくてはいけません、泳げるような状態でのという授業は必須ではございませんので、その辺を考えまして、今後白石と福富の中学校のプールはそれを維持するのではなくて、有明の爽明館の方で着衣で訓練をするというような、そういうところだったら出来るのではないかという部分を検討していきたいと思っております。それで、条件を整えば来年度からは、その辺をしたいなあと今後また検討を始めたところです。後々をもって、そういう風になれば教育委員会にお諮りは致しますけど、そういう研究を始めたという事でご報告をさせていただきます。

松尾委員：実際、附属中学校とかプールございませんし、無い中学校は意外と沢山ありますし、別にそれに関してはいいのではないかと思います。

吉岡課長：実際、無いところはあります。私たちもありませんでした。

北村教育長：追加ですが、中学校の水泳の授業というのは必須ではありません

ん。水に関する安全の指導は必ずやらないといけないとなっておりますが、あとは、施設等の関係でしなくてもいいと今学習指導要領でなっています。ですが、福富なんかは、とても楽しみにしているということです。ご覧になってかなり厳しいです。本来飛び込み台も撤去しなくてはいけません、そういう作りになっていませんし、コンクリートがザラザラで真っ黒になっています。機械そのものもごまかし、ごまかし、白石中もプールそのものは、まだそれほどでもないかと思いますが付帯設備がトイレとか更衣室もそうですが、機械も危ない、壊れたらすごい予算ですので爽明館へと思いますが、爽明館もかなり地域の方が利用されておりますので、私が有明中学校の校長時代も爽明館に子どもを入れるのも随分苦勞しました。ですから、今後そういう調整が必要ですが、方向としてはそういう方向です。プールを作り直すというのは難しい。

松尾委員：学校統合の話もある上なので。

下田委員：先日、白石中学校の訪問に行ったときに委員同士で、プールあんまりだという話をしていました。確かに外から見ても古い、危ない、危険そうなイメージを受けていました。

福富中学校の給食を廃止することによって、給食で携わっている職員さん、今の調理師さんたちの後の職場は。

吉岡課長：人数が先に立っているもので、福富中学校を出来るほど人数が雇えなかったものですから、現在は福富中学校では作ってない。これによって雇用が減るというわけではありません。逆に現在雇用数が足りない状況です。どちらかという、来年福富中学校以外のところを出来るだろうかという状況です。

北村教育長：とにかく集まりません。センターとか他の小学校でも欠員が出ています。

稲佐委員：回覧板等で回してあっても無いわけですね。

吉岡課長：OBの方に紹介していただきたく回っていますが、一つ今時期的に就職されていますので、今会社を辞めてというわけにはいかないこともあります。

稲佐委員：タイミングもありますよね。

下田委員：調理師の資格はいりませんよね。

吉岡課長：いりません。

松尾委員：検便したりするのが嫌な方もいらっしゃいます。

吉岡課長：それでは、よろしいでしょうか。

委員全員了解

川畑係長：J A白石地区から佐賀びよりの学校給食への提供の申し込みのお知らせ。二学期最後の給食にでも提供できればという事で調整中。

下田委員：教育長の報告の中で、小学校の低学年、1年生、2年生に暴力が多くなっているという報告いただきましたが、白石はそういうことはありませんか。報告ありませんか。

北村教育長：聞いておりません。

下田委員：よかったです。それで家庭教育、社会教育が不足しているのであろうと感じました。教育長から幼保小の連携といわれてましたけど、先日私たち研修に行った時には、よその事例ですけど生まれた時から18歳まで一元的に見守っていく、見守りのやり方としてはどうかというところもありまして、後で報告させていただきますが、白石町もそういう風なもの的大事だと、生まれてから18までではなくても成人までもというような、一つの部署でずっと見守って育てていく、私、教育の教が共に育むという風な場所が必要ではと感じました。

松尾委員：私も同じような話ですが、沖縄県の分科会の中で、貧困対策に係る教育委員会の関りというのに参加させていただいて、先ほどの話も大阪の美濃市の案件ですが、こちらの方が教育委員会の中に福祉まで全部入れられている。そこで展開されていらっしゃる。先ほどの例えば準要保護の話がありましたが、そういう話でも福祉の方がいらっしゃれば、仕事をどうしようとかもうちょっと踏み込めるのではないかと、色々な部分で親に対しての教育も出来ており、指導も出来ているみたいですので、そういうのが白石の方にもあってもいいのかと、そういう話し合いの時に福祉の方が一人でもいらっしゃったら色々な話がもう少し出てくるのでは、対策ができるのではと思いました。

下田委員：今回の発表は、これをデータベース化しています。というような発表でしたが、それはどうかと思いましたが、子どもたちの数も少なくなっていますし、生まれた時から成人して社会に出るまで、今、関り大分あっていると思います、小学校卒業してから高校まで追っていただいていますし、保育園から小学校へ上がる時には色々な関りをもってもらっています。それをもう少し幅をもって、成人するまで自立するまで見守りが出来たらと思います。

北村教育長：ご意見ありがとうございます。行政の組織として例えば子どもに関わるところを一元化できるのが理想です。放課後児童クラブ等も分かれなくて、ただ、白石町が合併その後が続いていますので、まだ職員の削減が出来ていません。そういうところで、

そういう組織の改編は、現実難しい、その中で今言われたような連携、協力というのがいかにできるかという、していかなくてはと思います。

川畑係長：今、子どもの貧困の話が出ましたけど昨年度から人口対策プロジェクトという事で、その中で、子どもの貧困対策という事で、構成としては、教育委員会、企画財政課、こども未来係と福祉で連携して、何ができるのかというのの取り組みをしていて、今年度は、学校全部ではありませんが、ピックアップして学校の校長先生、教頭先生、養護の先生、生活関係の先生から意見を聴取して、何が行政として出来るかというのをそういったプロジェクトチームを作って動いているところです。ですから、今、教育長さんおっしゃられたように組織をというのではなくて、それができないのであれば係から出てチームを作ってというような動きをやっています。

次回教育委員会の決定

教育委員会 12月18日（月）午後1時30分

6 閉 会 11:48

吉岡学校教育課長